

# 創立125周年のチャペルアワー

田 淵 結

1889（明治 22）年に創立された関西学院は、今年 125 周年の記念の年を迎え、9 月 28 日には、新装なる125 周年記念講堂（新中央講堂）での記念式典が予定されています。アメリカ南メソジスト監督教会宣教師ランバスにより「キリスト教ノ主義」に基づき設立された関西学院にとってキリスト教は、その独自性を支える根幹としての意味を持ち続けてきました。しかし125 年の歴史のなかで、キリスト教主義堅持のために、さまざまな試練を克服してゆかねばなりません。学院創立10 年目となる1899（明治 32）年には文部省訓令第十二号により、課外活動であっても一切の宗教教育が禁止されました。当時の吉岡院長は「聖書と礼拝なくして学院なし」と訴え、学院の独自性を守ろうとしました。

太平洋戦争期にあつては、学院の維持に中心的役割を果たしてきたアメリカ、カナダからの宣教師たちは本国に強制的に送還されることとなり、ベーツ院長の提唱したスクールモットー“Mastery for Service”も英語、つまり敵性語のゆえにそれを掲げることもゆるされず、上ヶ原キャンパス中央芝生に面する時計台のエンブレムは撤去され、その語を含む校歌「空の翼」を歌うことすらできなくなりました。学院創立以来守られてきたチャペルアワーも中止され、神学部は閉鎖されてしまったのです。

創立 125 周年を迎える今、関西学院ではほぼすべての学校、学部でチャペルアワーが実施され、キリスト教についての学びが展開されていますが、それは125 年の歴史の中で関西学院が、自分たちの独自性、関西学院ならではの教育を展開するため、さまざまな時代からの試練のなかで守り抜いてきたものです。関西学院に学ぶみなさんが、ぜひ関西学院にしかない個性に触れ、そこで125 年の歴史を通じて関西学院が求め続けてきたものを感じ取っていただきたいのです。そのときみなさんはまた、校歌「空の翼」に歌われる「輝く自由」の大切さをも実感されることでしょう。

「聖書と礼拝なくして関西学院なし」今年もチャペルアワーが始まります。

（教育学部宗教主事、宗教総主事）